

静岡がん会議

2025

がん医療の均てん化・集約化の諸課題
地域活力の向上を目指す医療田園都市構想

令和8年3月7日(土)

静岡県立静岡がんセンター研究所

主催

静岡県

静岡がんセンター

(公財)ふじのくに医療城下町推進機構ファルマバレーセンター

開催趣旨

人口の減少や高齢化、社会・経済状況の変化、新興感染症のパンデミックなど、医療を取り巻く環境が大きく動いています。厚生労働省は「2040年を見据えたがん医療提供体制の均てん化・集約化に係る基本的な考え方及び検討の進め方について」と題する課長通知を2025年8月に発し、各県で地域の实情に応じた議論を進めるよう指示しました。これを受け、静岡県がん診療連携協議会でも、2026年1月からがん医療の均てん化と集約化の議論を開始したところです。

静岡がん会議2025は、第1部「がん医療の均てん化・集約化の諸課題」、第2部「地域活力の向上を目指す医療田園都市構想」の2つのテーマを掲げました。本会議は、良質で持続可能な静岡県のがん医療の構築について、そして超高齢者の理想郷を目指す医療田園都市構想について、関係の皆様の間で議論を深め、幸福度日本一の静岡県の実現につなげていくことを目的に開催します。



静岡県立静岡がんセンター 総長 上坂 克彦

プログラム

静岡がん会議2025 | 令和8年3月7日(土) 静岡がんセンター研究所しおさいホール

テーマ: がん医療の均てん化・集約化の諸課題
地域活力の向上を目指す医療田園都市構想

10:35 主催者挨拶……………鈴木 康友 (静岡県知事)

10:40 実行委員長挨拶 ……上坂 克彦 (静岡県立静岡がんセンター 総長)

第1部:がん医療の均てん化・集約化の諸課題

10:50 **基調講演 1**……………**2040年を見据えたがん医療提供体制の均てん化・集約化に係る基本的な考え方および検討の進め方について**
鶴田 真也 (厚生労働省健康・生活衛生局がん・疾病対策課 課長)

11:20 **講演 1**……………**がん医療の均てん化・集約化の課題～沖縄県の取り組み～**
増田 昌人 (琉球大学病院がんセンター センター長)

11:40 **講演 2**……………**がん医療の均てん化・集約化の課題～大学の視点～**
竹内 裕也 (浜松医科大学医学部附属病院長 浜松医科大学外科学第二講座教授)

12:00 質疑応答

12:20 昼食/休憩 (50分)

13:10 **講演 3**……………**がん医療の均てん化・集約化～静岡県がん診療連携協議会の進め方～**
上坂 克彦 (静岡県立静岡がんセンター 総長)

13:30 **講演 4**……………**新たな地域医療構想とがん医療の均てん化・集約化**
藤森 修 (静岡県健康福祉部医療局 局長)

13:50 **講演 5**……………**がん医療の均てん化・集約化の課題～静岡県病院協会の視点～**
毛利 博 (公益社団法人静岡県病院協会 会長)

14:10 **講演 6**……………**がん医療の均てん化と集約化～患者の立場～(オンライン)**
天野 慎介 (一般社団法人全国がん患者団体連合会 理事長)

14:30 質疑応答

14:50 休憩 (10分)

第2部:地域活力の向上を目指す医療田園都市構想

15:00 **講演 7**……………**医療田園都市構想の進捗状況について**
桑田 秀樹 (静岡県経済産業部産業革新局新産業集積課 課長)

15:20 **講演 8**……………**沼津市のまちづくりについて**
頼重 秀一 (沼津市長)

15:40 **講演 9**……………**「自立のための3歩の住まい」の全国展開**
山本 行俊 (株式会社システム環境研究所 取締役相談役)

16:00 **講演 10**……………**「まちづくりにおける未来へ果たすべき責任」～兵庫県宝塚市における事例紹介～**
山岡 謙吾 (パナソニック ホームズ株式会社 街づくり事業部
プロジェクト推進室 課長(宝塚プロジェクトプロジェクトマネージャー))

16:20 質疑応答

16:40 閉会挨拶……………上坂 克彦 (静岡県立静岡がんセンター 総長)

第1部 がん医療の均てん化・集約化の諸課題

基調講演1

◆ 2040年を見据えたがん医療提供体制の均てん化・集約化に係る基本的な考え方および検討の進め方について

講師 ◆ 鶴田 真也 厚生労働省健康・生活衛生局がん・疾病対策課 課長



経歴・研究活動等

2004.3	山梨医科大学医学部 卒業
2004.4	山梨大学医学部附属病院卒後臨床研修
2006.4	国立がんセンター東病院レジデント
2009.4	厚生労働省入省
2019.7	奈良県医療政策局長
2021.9	厚生労働省健康局健康課予防接種室長
2022.6	厚生労働省医政局医薬産業振興・医療情報企画課医療機器政策室長
2024.7	厚生労働省健康・生活衛生局がん・疾病対策課長

国はがん対策基本法に基づき、全国どこにおいても質の高いがん医療を受けることが可能となるよう、がん医療の均てん化の推進に取り組んできた。第4期がん対策推進基本計画においては、地域の実情を踏まえた均てん化の推進とともに、持続可能ながん医療体制の確保に向け、がん診療連携拠点病院等の役割分担を踏まえた医療資源の集約化を推進するとしており、検討会での議論を経て、令和7年8月に「2040年を見据えたがん医療提供体制の均てん化・集約化に関するとりまとめ」が公表された。これを踏まえ、都道府県における均てん化・集約化の議論の進め方について、厚生労働省の立場から概説する。

講演1 ◆ がん医療の均てん化・集約化の課題～沖縄県の取り組み～

講師 ◆ 増田 昌人 琉球大学病院がんセンター センター長



経歴・研究活動等

1988.3	琉球大学医学部医学科卒業
1994.3	琉球大学大学院医学研究科修士、医学博士
1997.5	英国Wales大学客員研究員(～99年5月)
2001.8	琉球大学医学部附属病院第二内科講師
2007.10	琉球大学医学部附属病院がんセンター長
2011.7	琉球大学医学部附属病院(現 琉球大学病院)がんセンター長・診療教授、現在に至る
	日本サイコoncology学会理事(第38回総会長)
	日本がん登録協議会理事(第27回総会長)
	厚生労働省がん診療連携拠点病院等の指定要件に関するWG構成員
	国立がん研究センター研究開発費運営委員会委員

受賞歴

2014	第9回パーソナルコンピュータ利用技術学会最優秀研究発表賞
2015	第88回日本産業衛生学会優秀演題賞
2021	第30回日本がん登録協議会最優秀ポスター賞
2023	琉球大学RX学長賞
2024	琉球大学地域貢献表彰
2025	令和7年度琉球大学RX学長賞

沖縄県がん診療連携協議会では、がん診療の質向上を目的として、2012年度および2018年度にがん診療を担う医療機関の選定要件を協議・決定してきた。これを踏まえ、沖縄県は2013年度以降、医療機関の選定を毎年実施しており、沖縄県医師会も本事業に協力している。

本講演では、2025年度に行われた選定要件見直しの協議結果を踏まえ、医療機関の選定をいかに合意形成のもとで進めてきたかを、県内医療機関および県民への働きかけの実際とともに紹介する。



講演 2 ◆ がん医療の均てん化・集約化の課題～大学の視点～

講師 ◆ 竹内 裕也 浜松医科大学医学部附属病院長 浜松医科大学外科学第二講座教授



経歴・研究活動等

1992.3	慶應義塾大学医学部卒業
2001.4	John Wayne Cancer Institute留学(米国)
2011.11	慶應義塾大学外科学教室専任講師
2013.5	慶應義塾大学外科学教室准教授
2017.3	浜松医科大学外科学第二講座教授
2020.4	浜松医科大学医学部附属病院副院長
2022.4	浜松医科大学医学部附属病院腫瘍センター長・ 消化器センター長
2025.4	浜松医科大学医学部附属病院病院長 浜松医科大学副学長
受賞歴	
2006	日本癌学会奨励賞
2007	日本食道学会会長賞
2014	日本癌治療学会最優秀演題賞
2015	慶應義塾大学医学部三四会北島賞

静岡県は東西に広く、地域ごとに医療資源や症例数に偏在があるが、がん医療の質向上には高難度治療を担う拠点への集約化が不可欠である一方、県全体で標準治療を安定して提供する均てん化も同時に求められる。浜松医科大学は、先進的がん医療と人材育成を担う中核拠点として、症例集約と地域医療機関との連携を通じ、集約化と均てん化の両立を図る役割を担っている。現状の課題と将来展望について考えたい。

講演 3 ◆ がん医療の均てん化・集約化～静岡県がん診療連携協議会の進め方～

講師 ◆ 上坂 克彦 静岡県立静岡がんセンター 総長



経歴・研究活動等

1982.4	名古屋大学医学部卒業
1982.5	南生協病院外科医師
1986.6	国立がんセンター 外科レジデント
1990.10	名古屋大学第一外科 医員
1993.4	愛知県がんセンター消化器外科 副院長
1996.4	名古屋大学第一外科助手
1997.6～	ハーバード大学留学
1998.3	
2002.4	静岡県立静岡がんセンター 肝胆膵外科部長
2011.1	静岡県立静岡がんセンター 副院長
2020.4	静岡県立静岡がんセンター 病院長
2023.4	静岡県立静岡がんセンター 総長

日本のがん罹患者数は、2040年をピークにその後減少に転ずると推測されている。一方静岡県では、2025年を基準とすると2040年のがん罹患者数は-5%～0%になると推定されている。こうした変化予測のもと、各県の実情に合わせたがん医療の均てん化・集約化の議論を、都道府県がん診療連携協議会で進めるよう厚生労働省から指示されている。静岡県がん診療連携協議会では、「均てん化・集約化部会」を設け、がん種ごとの議論を進める予定としている。

講演 4 ◆ 新たな地域医療構想とがん医療の均てん化・集約化

講師 ◆ 藤森 修 静岡県健康福祉部医療局 局長



経歴・研究活動等

1989.3	中央大学経済学部経済学科 卒業
1989.4	静岡県庁 入庁
2020.4	静岡県健康福祉部健康局健康増進課 地域包括ケア推進室長
2022.4	静岡県健康福祉部医療局医療政策課長
2024.4	静岡県健康福祉部医療局長

静岡県では、2016年に地域医療構想を策定し、構想区域ごとの調整会議での協議や地域医療介護総合確保基金を活用した取組などにより、地域にふさわしい調和の取れた医療提供体制の構築を図ってきた。国では、2040年に向けた新たな地域医療構想の検討がされており、県では、来年度から構想の策定に着手し、人口減少、高齢化、医師偏在等に対応した持続可能な医療提供体制を確保していく。がん医療については、地域の実情に応じて均てん化・集約化をバランス良く進められるように協議の場の連携などを行い、構想を策定していくことを紹介する。

講演 5 ◆ がん医療の均てん化・集約化の課題 ～静岡県病院協会の視点～

講師 ◆ 毛利 博 公益社団法人静岡県病院協会 会長



経歴・研究活動等

1975.3	横浜市立大学医学部卒
1975.4	聖路加国際病院内科レジデント
1977.4	昭和大学藤が丘病院 血液内科助手
1983.6	横浜市立大学医学部中央検査部医務吏員
1987.1	米国スクリップス研究所留学
1989.4	横浜市立大学医学部第一内科助手
1989.10	横浜市立大学医学部第一内科講師
2001.4	慶応義塾大学医学部伊勢慶応病院内科助教授
2004.4	東海大学医学部保健管理学助教授
2005.4	藤枝市立総合病院副院長
2009.1	藤枝市立総合病院病院長
2013.4	藤枝市病院事業管理者
受賞歴	
1997	横浜市立大学医学賞

2040年に向け急激な人口減少が起こり、医療需要の減少から従前の医療提供体制は立ち行かなくなる。地域医療構想では、病院の機能を分類し、2035年頃に連携・再編・集約化により医療提供体制の再構築を促している。がん診療も運営に苦慮しており、地域医療構想と連動して、静岡県におけるがん診療のあるべき姿を明らかにする必要がある。これらの観点を病院協会の立場から紹介し考察する。

講演 6 ◆ がん医療の均てん化と集約化～患者の立場～ 〈オンライン〉

講師 ◆ 天野 慎介 一般社団法人全国がん患者団体連合会 理事長



経歴・研究活動等

1999.3	慶応義塾大学商学部卒
2009.4	厚生労働省がん対策推進協議会委員・会長代理
2013.6	一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン理事長
2015.7	一般社団法人全国がん患者団体連合会理事長
2016.4	厚生労働省がん診療提供体制のあり方に関する検討会構成員
2025.5	厚生労働省社会保障審議会医療保険部会 高額療養費制度の在り方に関する専門委員会委員
受賞歴	
2021.9	朝日がん大賞

我が国のがん対策は、居住する地域に関わらず均しく標準治療が受けられるように目指す均てん化を志向してきたが、人口減少社会と医療従事者の不足などにより、集約化を検討せざるを得ない状況にある。集約化を進める場合には、どこでどのようながん医療を受けられるかを可視化し、地域の患者関係者を含むステークホルダーが参画する場において、あるべきがん医療の姿を話し合う必要があると考える。

第2部 地域活力の向上を目指す医療田園都市構想

講演 7 ◆ 医療田園都市構想の進捗状況について

講師 ◆ 桑田 秀樹 静岡県経済産業部産業革新局新産業集積課 課長



経歴・研究活動等

1996.4	静岡県庁入庁
2020.4	静岡県文化・観光部観光振興課長代理
2022.4	静岡県政策推進局財政課長代理
2023.4	静岡県政策推進局財政課参事
2024.4	現職

静岡県では、静岡県立静岡がんセンター、ファルマバレーセンターと連携し、超高齢社会の理想郷の形成を目指す「医療田園都市構想」を、令和5年7月に策定した。

暮らしの質の向上、都市機能強化・産業活性化、医療の充実と健康寿命の延伸、文化・教育・観光の充実という観点で、現在の進捗状況を報告する。

講演 8 ◆ 沼津市のまちづくりについて

講師 ◆ 頼重 秀一 沼津市長



経歴・研究活動等

1987	日本大学三島高等学校卒業
1991	日本大学理工学部建築学科卒業
1991	株式会社間組入社
1998	衆議院議員公設秘書
2003	沼津市議会議員初当選 (以後4期連続当選)
2017	第83代沼津市議会議長就任
2018	沼津市長就任
2022	沼津市長2期目

地域の活力の向上を目指す「医療田園都市構想」を踏まえた、沼津市のまちづくりについて、本市の概要や、現在、実施している特徴的な取り組みを、下記の内容により紹介する。

- 1 沼津市の特徴
- 2 都市基盤整備
 - (1) 沼津駅周辺総合整備事業
 - (2) ヒト中心のまちづくり
 - (3) スマートシティの取組
- 3 地域資源を活かしたまちづくり
 - (1) 食
 - (2) コンテンツツーリズム
 - (3) スポーツ・芸術文化
- 4 若者・女性にも選ばれるまち
- 5 高齢者対策
- 6 最後に

講演 9 ◆ 「自立のための 3歩の住まい」の全国展開

講師 ◆ 山本 行俊 株式会社システム環境研究所 取締役相談役



経歴・研究活動等

1980	九州大学経済学部経営学科卒業
1980	株式会社セントラルユニ入社
1993	株式会社セントラルユニ退社
1993	株式会社システム環境研究所 設立
	株式会社システム環境研究所 代表取締役社長 就任
2013	株式会社システム環境研究所 代表取締役会長 就任
2020	株式会社システム環境研究所 取締役相談役(現職) 就任
2013	特定非営利活動法人小児がん・まごころ機構 監事就任
2016	一般社団法人国際医療健康交流機構代表理事就任
2025	公益財団法人高松宮妃がん研究基金評議員就任

現在ようやく社会に萌芽・浸透しつつある“人生100年時代”や“高齢者の暮らしへの配慮”を背景として、人生100年住宅「自立のための 3歩の住まい」の社会実装化を推進する東京コンソーシアムリーダーの立場から、現時点までのプロジェクトの経過を紹介する。さらに、国内のまちづくりや住宅、施設の計画において社会実装可能性のある事例や、海外展開に向けた活動状況等についても紹介する。

講演 10 ◆ 「まちづくりにおける未来へ果たすべき責任」 ～兵庫県宝塚市における事例紹介～

講師 ◆ 山岡 謙吾 パナソニック ホームズ株式会社 街づくり事業部
プロジェクト推進室 課長(宝塚プロジェクトプロジェクトマネージャー)



経歴・研究活動等

1991.3	大阪府立泉尾高等学校 卒業
1999.4	近畿総研株式会社
2003.4	フジ住宅株式会社
2016.5	パナホーム株式会社 分譲技術部
2018.10	パナソニック ホームズ株式会社 分譲技術部
2020.10	パナソニック ホームズ株式会社 複合プロジェクト推進部
2025.4	パナソニック ホームズ株式会社 プロジェクト推進室 課長

高度経済成長期に日本全国で開発されたニュータウン。現在、多くが開発から50年が経ち、少子高齢化社会の中でも特に高齢化が進んでいる事が社会問題化している中で、街づくりを行う者として、いかに向き合い、自治体任せにするのではなく、民間の力で課題解決するかが求められている。

宝塚市では、自治体・住民・企業が一体となり、ご高齢者の抱える不安や負担を軽減し、更に新たな人を呼び寄せるかの取組を、民間主体でスタートさせた。